

イタリア日本語教育協会 2018年研修会プログラム

2018年3月23日(金) 24日(土)

サピエンツァ ローマ大学

Sapienza Università di Roma

Edificio Marco Polo Circonvallazione Tiburtina 4 00185 Roma

3月23日(金)

- 11.00 開会
11.00 – 13.00 講義1 麗澤大学 井上優 (Aula T03 piano terra)
「対照研究を通じて考えたこと—日本語学との関連で—」
13.00 – 14.50 昼食
15.00 – 16.30 機関報告 (Sala Riunioni terzo piano)
15.00 – 15.15 Università Ca' Foscari Venezia - Marcella Mariotti
15.15 – 15.30 Sapienza Università di Roma - Asako Ishihara e Naoko Ozawa
15.30 – 15.45 Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" – Junichi Oue
15.45 – 16.00 Istituto Giapponese di Cultura in Roma – Hideki Otani
16.00 – 16.15 Liceo scientifico Guglielmo Marconi - Maiko Hiramatsu
16.15 – 17.15 「欧州日本語教育研修会」報告- Miho Tokimoto e Reiko Indo
17.15 – 17.35 休憩
17.35 – Aidlg 総会 実行委員改選 (不在者投票はできません。)
19.30 – 懇親会

3月24日(土)

- 9.00 – 11.00 講義2 麗澤大学 井上優 (Sala Riunioni terzo piano)
「対照研究を通じて考えたこと—日本語教育との関連で—」
11.00 – 11.15 休憩
11.15 – 11.25 Aidlg30周年によせて
11.25 – 11.35 機関報告 Università degli Studi di Milano – Simone dalla Chiesa
11.35 – 11.45 Università degli Studi di Torino – Takae Kobayashi
11.45 – 11.55 Università degli Studi di Catania - Paolo Villani
11.55 – 12.05 Università degli Studi di Firenze –発表者調整中
12.05 – 12.15 Università di Pisa – Yukari Saito
12.15 – 12.45 候補機関調整中
12.45 – 13.00 閉会

※プログラム内容は変更されることもあります。

講師略歴

麗澤大学教授 井上優(いのうえ・まさる)先生



麗澤大学大学院言語教育研究科 教授

麗澤大学外国語学部 教授

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所 言語対照研究系 教授

一橋大学大学院言語社会研究科第2部門 連携教授

独立行政法人国立国語研究所(主任研究員, 領域長, センター長)

北京日本学研究中心 派遣教授

・講義(1)

「対照研究を通じて考えたこと(1)―日本語学との関連で―」

言語の対照研究とは、複数の言語を「比べて考える」ことを通じて、各言語の特性を明らかにし、各言語を相対化する(公平に見る)ための視点を見出す研究です。この講演では、これまでおこなってきた日本語と中国語・韓国語の対照研究を例にあげながら、対照研究の意義と役割について考えます。トピックは、文法、意味、コミュニケーションに関することがらです。

・講義(2)

「対照研究を通じて考えたこと(2)―日本語教育との関連で―」

外国語教育における文法・意味・コミュニケーションに関する説明は、ネイティブの感覚にもとづくのが一般的ですが、ネイティブがよいと思う説明がノンネイティブの学習者にとって「わかりやすく役に立つ」とは限りません。この講演では、私たちが外国語を学ぶときの経験を振り返りながら、「ノンネイティブにとって有益な説明」について考えます。

井上先生からのコメント 「イタリア語と対照した場合はどうか?」「イタリア語母語話者が学習者の場合はどうか?」ということを考えるきっかけを提供できればと思っています。学習者の立場から外国語の文法や意味の説明についていろいろ思うところがあるので、そのことをふまえて、「日本語教育ではどうか?」という問題提起をしたいと思っています。全体を通じて、日本語教師の皆様には何かを考えるきっかけは提供できるとと思っています。